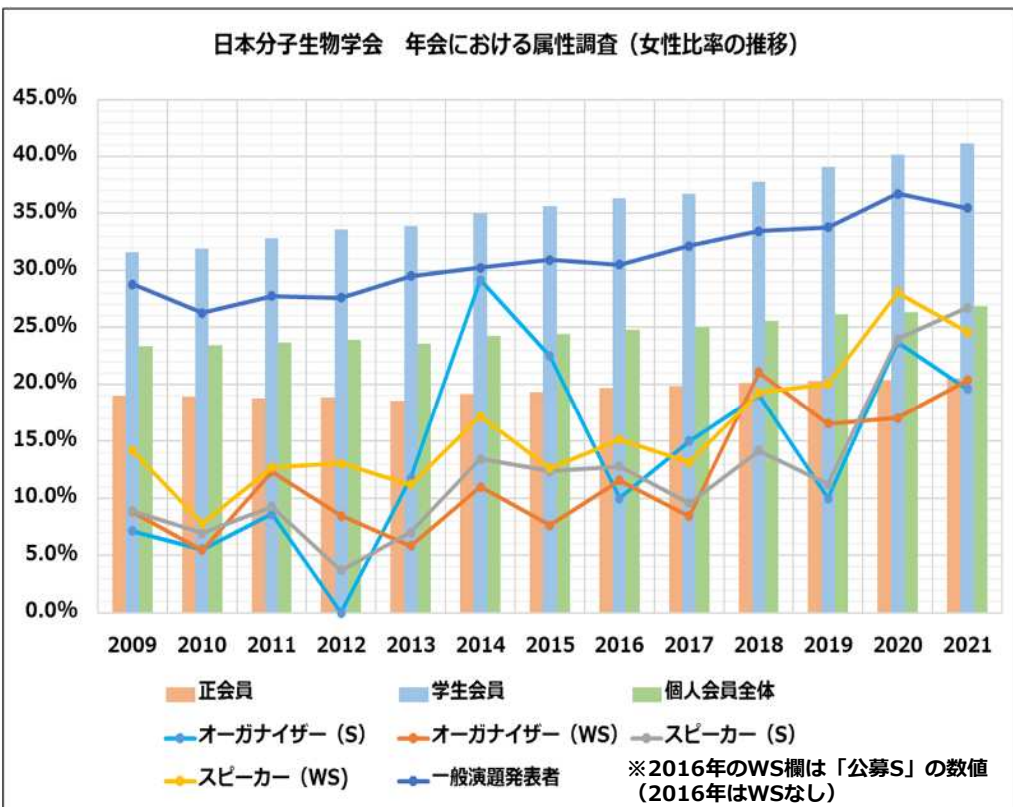


## バランスの取れた研究環境を築くために — 年会における演題発表者等の属性調査 —



### 属性調査とは？

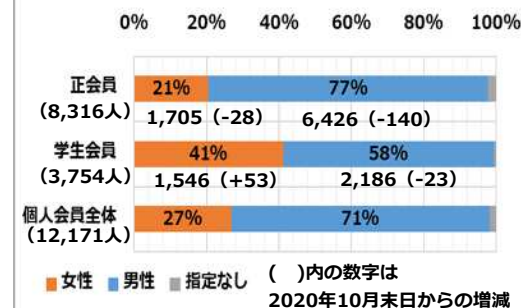
研究発表の場においては、性差にかかわらず研究者としてのビジビリティ（可視性）を高めることでその後の研究機会・キャリア獲得などに結び付けることが期待される。シンポジウム・ワークショップのオーガナイザーやスピーカーの多くは正会員であることから、その男女比率が学会会員における男女比率との近似値になることが望ましい。

**「シンポジウム・ワークショップなどのオーガナイザー・口頭発表者における女性比率は、学会員全体における女性比率と比べて低いのではないだろうか」という疑問をもとに、年会発表者が属する性（属性）について、2009年度から継続調査を行っている。**

### 発表者が決まるプロセスの違い

- **シンポジウム (S)**  
 オーガナイザー：年会側が検討・依頼（他薦）  
 スピーカー：オーガナイザーが検討・依頼（他薦）
- **ワークショップ (WS)**  
 オーガナイザー：応募者（自薦）の中から選抜される  
 スピーカー：オーガナイザーが検討・依頼（他薦）
- **一般演題発表者**  
 自発的な申し込み（自薦）

### 日本分子生物学会の男女比率（2021年10月末日現在）



第44回年会（MBSJ2021）ではシンポジウムに年会指定企画と公募枠があり、ワークショップはすべての企画が公募であった。公募企画についてはいずれも募集時、女性や若手研究者がオーガナイザーや指定演者に入っている企画を優先して採択する旨が明示された。シンポジウムスピーカーの女性比率は調査開始以来最高となっている。シンポジウム・ワークショップのオーガナイザー・スピーカー、いずれも正会員の比率とほぼ同じかそれを上回る結果となっている。

他方、ここではデータを示していないが、2021年は長引くコロナ禍の中、前年に例年の約半数となった一般演題（LBA含む）の全体投稿数が2019福岡年会（オンライン）の約8割まで持ち直し、主な一般演題発表者である学生会員の数も増加した。しかし正会員は男女共に微減が続いており、COVID-19が学生・若手研究者の研究活動に及ぼす影響には今後も引き続き注視する必要がある。



発表者の皆様、年会事前参加登録時の属性調査にご協力いただき、ありがとうございました。  
 これまでの属性調査結果まとめは学会HPでご覧いただけます。